

No. 0015

コゲイロニガイグチ(幸徳仮称)

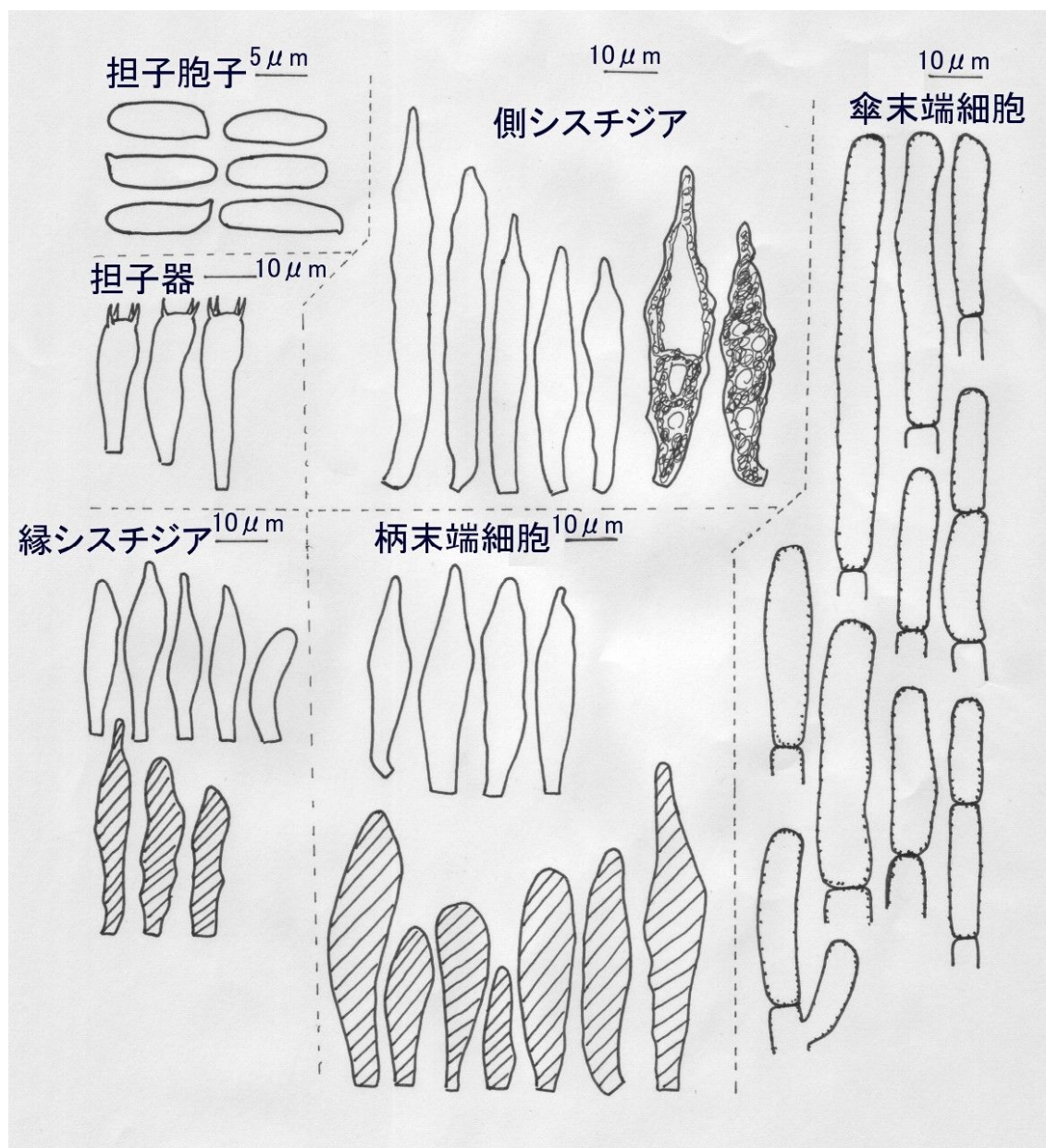
Tylopilus sp. = *Tylopilus alutaceoumbrinus* ss. Aoki











●傘は径 3.0-6.0cm, 饅頭形から平らな饅頭形;表面はビロード状, 粘性はなく, 焦茶色~チョコレート色, 触ると褐変する.

●柄は 4-6×0.4-1.4cm, 上下同径か下部はやや太くなり, 中心性, 中実;表面は平滑でしばしば縦しわがあり, 傘と同色かやや淡くてときに紫色を帯び, 頂部及び基部は白色, 触ると褐変する.

●肉は厚さ 0.5-1.1cm, 傘・柄ともに白色, 切断するとゆつくりと淡茶色に変色し, 質はしまり, ニガイグチ属特有の匂いがあり, 味はやや苦い.

●管孔は直生~陥入上生, 幅 0.4-0.5cm;孔口は2個/mm, ほぼ全縁;管孔・孔口ともに幼時白色のち成熟すると淡紅色, 触ると褐変し, 古くなると孔口は黄色を帯びてくる.

●孢子紋は淡紅色.

●孢子は円柱形~長楕円形, 平滑, 大きさ 9.0-11.0×3.0-3.5 μm, Q比 2.6-3.7.

●担子器は棍棒形, 大きさ 26-35×7.0-7.5 μm.

●縁シスチジアは棍棒形・狭紡錘形・屈曲する円柱形, 群生し, 大きさ 23-42×5.0-7.0 μm, 無色~黄褐色.

●側シスチジアは紡錘形~先が細くなる円柱形でやや波打っているようなものが多く, 大きさ

45-75×6.5-12.0 μ m, 無色～黄褐色で黄褐色のものは壊れているように見える.

●傘上表皮は毛状被で, 菌糸の太さ 5.5-7.5 μ m, 菌糸の先端は円柱形で先は丸みを帯び, 菌糸には黄褐色の色素を凝着し, 黄褐色の菌糸が壊れたようなものも多数見られる.

●傘実質は錯綜し, 非アミロイド.

●柄上表皮は平行菌糸被で, 末端細胞は立ち上がってシスチジア様となる;そのシスチジアは円柱形・狭紡錘形・棍棒形, 大きさ 25-63×5.0-10 μ m, 柄の上部では無色のものが多いが下部では黄褐色のシスチジアが増え, 黄褐色のものはときに壊れたように見える.

●クランプはすべての菌糸において見当たらない.

●フモトニガイグチに似ているが、本種はアカマツ林樹下において発生する点において区別できる.

採集日 2006年7月16日
採集場所 神戸市北区山田町
採集環境 アカマツ林樹下
採集者 幸徳伸也
同定者 幸徳伸也
標本番号 なし